

卓越大学院プログラム 事後評価結果

| | | | |
|----------|----------------------|---------------|------|
| 機関名 | 京都大学 | 整理番号 | 1910 |
| プログラム名称 | メディカルイノベーション大学院プログラム | | |
| プログラム責任者 | 波多野 悦朗 | プログラムコーディネーター | 渡邊 大 |

卓越大学院プログラム委員会における評価

| |
|---|
| <p>〔総括評価〕</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p> |
| <p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、計画どおりの進捗を達成できていると評価する。具体的には、中間評価及び現地視察時点において課題となっていた取組が一層強化され、大学院教育支援機構を主体とした8つの教育コースの設置や機構 SPRING プログラムへの大学フェロースhip創設事業の統合、医科学専攻における「医療 DX」コースへの拡充など、組織化と再編、制度化への取組が全学レベルでタイムリーに実施されている。5年一貫のプログラムとしても定着しており博士後期課程への進学率も高く、多段階 QE を核とし、他分野メンターによる多面的な視点での学位の質保証制度や PBL、異分野共同研究などを通じて学生の実践力を滋養しており、学生からの評価も非常に高い。KPI についてもほぼ当初計画を上回る実績を達成している。</p> <p>修了者の成長については、当初計画どおりの成果を達成していると評価する。具体的には、学生の自主的な活動を中心に国内外において学術面、医療イノベーションを通じた社会貢献面で多くの成果を上げている。特に MIP 海外派遣選抜プログラム (GTEP) では優秀な人材を先端研究拠点に派遣、派遣先からも高い評価を獲得できている。産学官連携においても GTEP による効果的なネットワーク形成を達成している。</p> <p>キャリアパスの構築については、当初目標を達成している。修了者はスタートアップ起業、製薬企業、大学研究部門など、多様でありながらも社会実装指向のキャリアパスを選択し、活躍している。また、同窓生向けサービス「KUON」が整備され、履修生、修了者、教職員の双方向ネットワークを形成している。令和3年度にはポートフォリオに「キャリアパス・社会実装」が追加されたこともキャリアパスの充実に貢献していると考えられる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、計画どおりの進捗が実現できていると評価する。具体的には、令和3年度に設立した大学院教育支援機構を核とした体制が構築され、並走する卓越大学院プログラムを含めたベストプラクティスが卓越ワークショップを通じて全学教員、学生に意識改革を含めて展開されている。特に、本機構に設置されている大学院横断教育プログラム推進部が卓越大学院プログラムに加え博士課程教育リーディングプログラムを含めて制度設計・改革や運営・質保証・評価を担っており、これらの成果を全学展開することで、大学院全体の活動として定着している。</p> |